

学校評価の結果の考察と対策

1 学校の自己評価

(1)「教職員アンケート」の結果と考察

教職員①

■学校教育目標・学校経営について

②3.65→3.76 ③3.48→3.61

2学期80日間。コロナ禍からの通常の行事に戻り、たくさんの行事を行う中で、学年・学級においても、学校教育目標及び経営方針に基づき様々な教育活動をやり切った2学期だったと考える。学年や学級の特色、それぞれの児童の抱える個性において様々な課題がある中で、実態に応じた指導や実践を行うべく、努力してきた結果が③にも表れている。現状に満足することなく、学級の課題を再度洗い直し(c)、改善につなげて(A)いつてほしい。「もっといい学校」を目指し職員一丸となり、OJTを生かして若手の育成を図りつつ、学校としての課題解決を目指していきたい。

(1)安全・安心の保障

○生活指導について③3.85→3.73 ○安全指導について①3.84→3.72 ②3.83→3.73

○前期にあった、2「どちらかというと思わない」の評価がなくなり、生徒指導については、職員間で共有し合う中で、安心・安全な学校生活を目指して取り組むことができたといえる。しかしながら、前期に比べて「そう思う」やわずかではあるが減っている。また、欠席が目立つ児童や、教室に入れない児童、人間関係に課題を抱える児童も少なからずいることから、今後も職員が連携し、連絡を取り合うとともに、児童の居場所を学校の中に作っていきけるように努めていきたい。

○安全指導については、新型コロナウイルスが5類に移行する中、インフルエンザの流行もあり、学校としても感染症対策に苦慮した2学期だった。登下校についても、不審者事案や課題があった登校班について、指導を続けているところである。前期に比べて評価が下がっていることについては、先生方が自身を振り返り、一層努力していきたいと考えた結果だととらえたい。

(2)学力の保障

①3.69→3.76 ②3.67→3.76 ⑤3.46→3.56 ⑥3.43→3.53/①3.52→3.69 ②3.32→3.57

○学習指導については、前期の評価においても昨年度に比べて全項目で評価が上がっていたところであるが、後期でも、高い評価を維持している。昨年度から校内研で取り組んできた学習の取り組みや家庭学習の取り組みが定着しつつあることの表れととらえることができる。

また、多様な学習と質の高い教育実践についても評価が高く、授業改善を意識して取り組んできたことが表れている。思考力・表現力の育成等、「分かる・できる、楽しい授業」を目指し、今後も校内研を中心にしながら、組織的に取り組んでいきたい。④の道徳的実践力を高める授業については、教材を日常の場面や児童の意識と結び付け、より具体的に考える中で、生活の中に生きてくるような授業を目指してほしい。秋の道徳公開を「ふるさと探検」という形で昨年に引き続き実践したが、道徳の授業についても公開を期待している保護者の声もあることから、授業参観でも、機会をとらえ、授業を公開していくことも考えたい。

ICT機器の積極的な活用に向けて取り組んでいるところだが、積極的にGIGA s sも活用する中で児童に活用する力をつけていきたい。一方で、使い方のマナーや約束についても確認し、正しく、有効に活用する方法を身につけさせたい。

(3)信頼の醸成 (4)参加の促進

④3.26→3.38

PTA総会・学年部会・地区懇談会等、大勢が集まる会についても今年度は実施でき、押杜っ子を守る会や、地区懇談会に、地域の方々も参加する中、数年ぶりに開催することができた。学校のblogでも校長先生を中心に学校の様子を積極的に発信している。今年度は(4)参加の促進においては、町の重点校の指定も受ける中、CSに関して、地区探検や田んぼ、サマースクールを含むクラブ活動等、様々な場面で地域の方の協力も得られていることは大変ありがたいことである。総合的な学習の授業においても、地域や保護者、町の協力も得ながら魅力的な学習の取り組みが進められた2学期であった。今後も「地域の人材や素材を授業に生かす」取り組みを積極的に推進していきたい。

